

# 広島県の地震

2026（令和8）年3月

## 目次

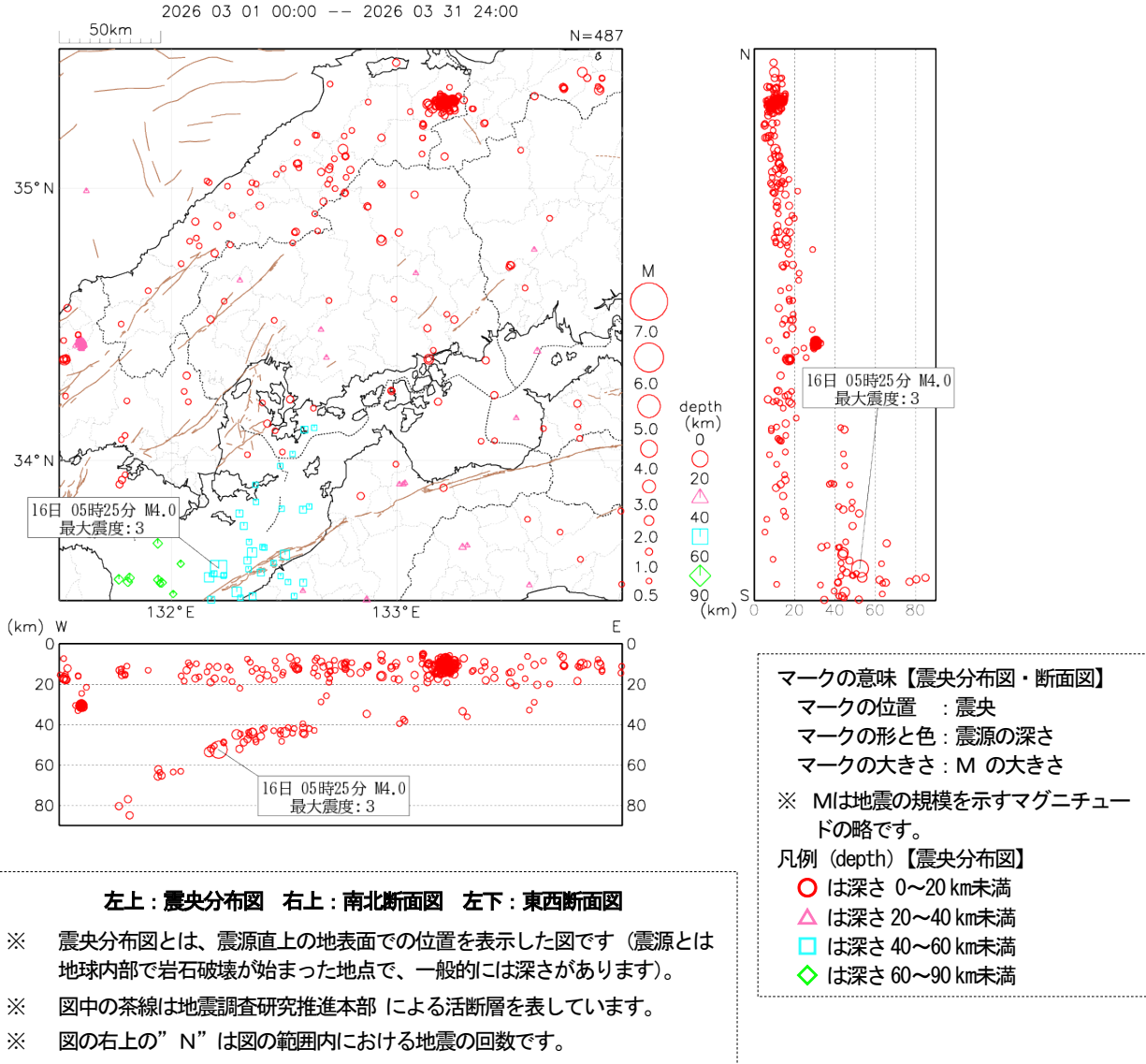
広島県及びその周辺の地震活動……………	1
震央分布図・断面図と地震概況	
広島県における震度1以上の地震……………	2
震度一覧表と震度分布図	
地震メモ 第255回……………	4
安芸灘～伊予灘～豊後水道の沈み込んだプレート内の地震 ～「平成13年（2001年）芸予地震」から25年～	

広島地方気象台

# 広島県及びその周辺の地震活動

【震央分布図・断面図】

2026年3月1日～3月31日



## 【地震概況】

この期間、広島県内で震度1以上を観測した地震は2回でした（先月は1回）。

1日18時00分 薩摩半島西方沖の地震（深さ124km、M5.4、上図の範囲外）により、宮崎県・鹿児島県で震度3を観測したほか、近畿・中国・四国・九州地方にかけて震度2～1を観測しました。広島県では三原市・尾道市・福山市・呉市・大崎上島町で震度1を観測しました。

16日05時25分 伊予灘の地震（深さ52km、M4.0）により、愛媛県伊方町で震度3を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度2～1を観測しました。広島県では大竹市で震度2を観測したほか県南部の広い範囲で震度1を観測しました。

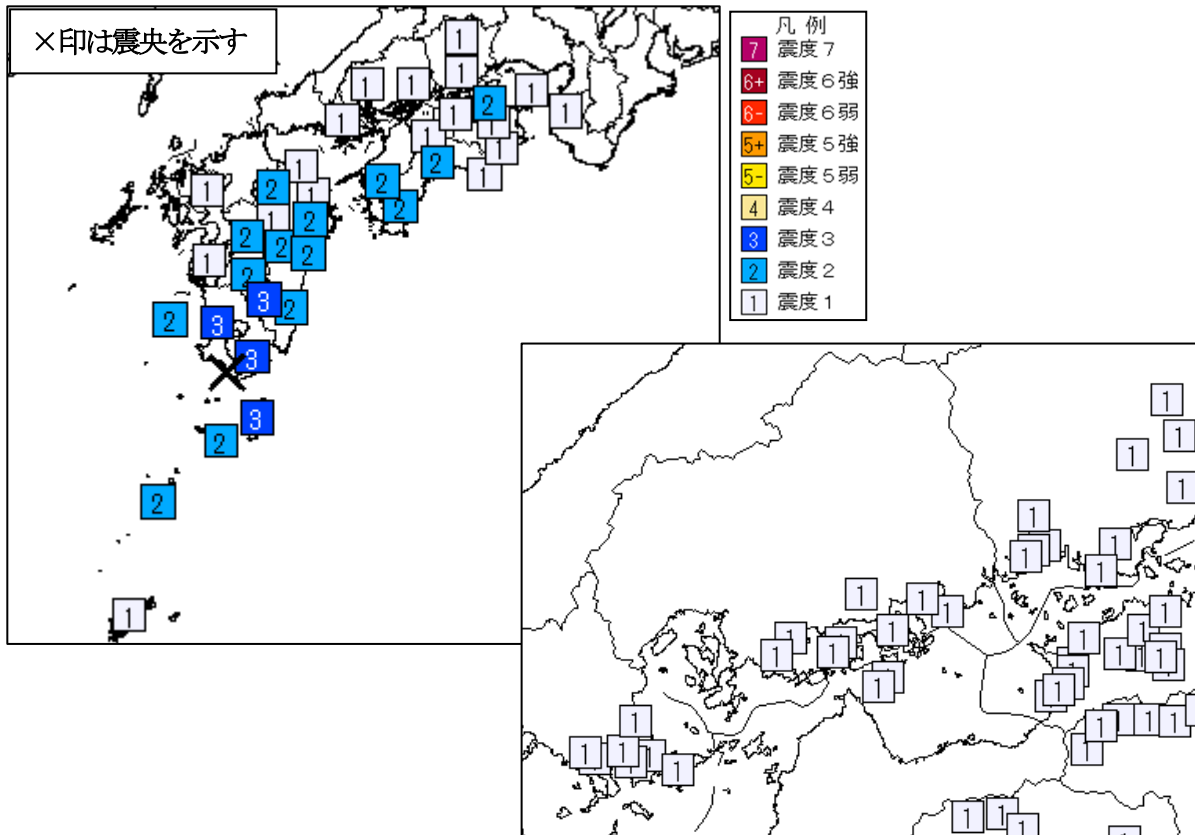
# 広島県における震度1以上の地震

## 【震度一覧表】

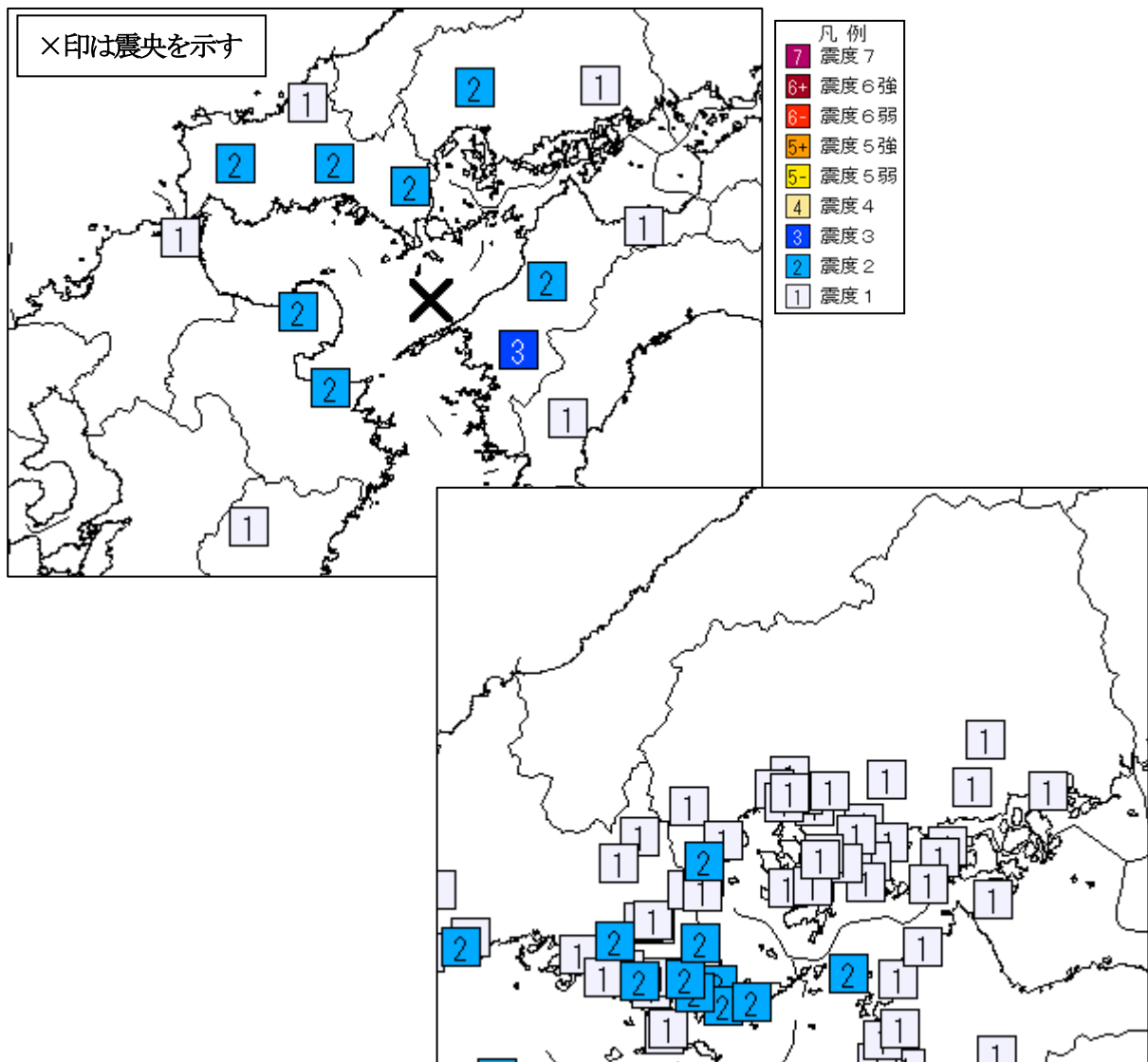
発震時刻（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	M
2026年03月01日18時00分	薩摩半島西方沖	31° 07.1' N	130° 33.7' E	124km	M5.4
————— 地点震度 —————					
広島県	震度 1：三原市本郷南*、尾道市向島町*、尾道市瀬戸田町*、福山市内海町*、呉市川尻町* 呉市安浦町*、大崎上島町中野*、大崎上島町東野*				
2026年03月16日05時25分	伊予灘	33° 36.0' N	132° 12.5' E	52km	M4.0
————— 地点震度 —————					
広島県	震度 2：大竹市小方* 震度 1：三原市久井町*、三原市本郷南*、尾道市向島町*、広島中区上八丁堀 広島中区羽衣町*、広島西区己斐*、広島安佐南区祇園*、広島安芸区中野*、呉市宝町 呉市音戸中学校、呉市二河町*、呉市広*、呉市郷原町*、呉市下蒲刈町* 呉市川尻町*、呉市音戸町*、呉市安浦町*、呉市豊町*、東広島市黒瀬町 東広島市西条栄町*、廿日市市大野*、廿日市市津田*、府中町大通り*、海田町役場* 江田島市大柿町*、大崎上島町中野*、大崎上島町東野*				

注) 震度の地名に\*印を付したものは、広島県または防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

## 【震度分布図】



2026年3月1日18時00分 薩摩半島西方沖の地震  
(左上) 地域震度分布図、(右下) 広島県周辺の観測点震度分布図



2026年3月16日05時25分 伊予灘の地震

(左上) 地域震度分布図、(右下) 広島県周辺の観測点震度分布図

#### ～「平成 13 年（2001 年）芸予地震」から 25 年～

「平成 13 年（2001 年）芸予地震」の発生から今年の 3 月 24 日で 25 年が経ちました。今回はこの地震を振り返るとともに、発生タイプである「沈み込むプレート内の地震」について解説します。

#### ○「平成 13 年（2001 年）芸予地震」

2001 年 3 月 24 日 15 時 27 分、安芸灘の深さ 46km で M（マグニチュード）6.7 の地震が発生し、広島県で震度 6 弱を観測したほか、関東～九州地方にかけて震度 5 強～1 を観測しました（図 1）。この地震により、2 名の方が亡くなったほか、負傷者 288 名、住家全壊 70 棟等の被害が発生しました（2002 年 9 月 24 日、総務省消防庁による）。また 2 日後の 3 月 26 日には、ほぼ同じ場所を震源とする安芸灘の地震（深さ 46km、M5.2）により、広島県で震度 5 強を観測しました。

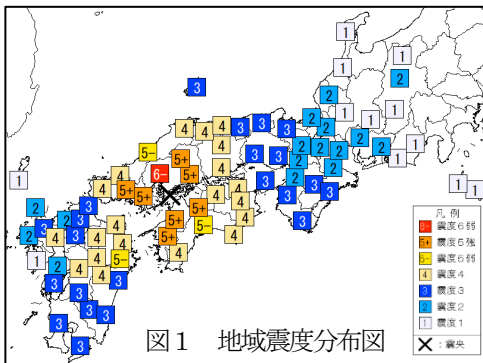


図 1 地域震度分布図



被害写真（気象庁現地調査資料より）  
 左：石垣の崩れ、右：落石

#### ○安芸灘～伊予灘～豊後水道の沈み込んだプレート内の地震について

日本付近で発生する地震のタイプは、陸のプレート内の浅いところで発生する「陸域の浅い地震」、陸のプレートと海のプレートの境界で発生する「プレート境界の地震」、陸のプレートの下に沈み込む海のプレート内で発生する「沈み込むプレート内の地震」に分けられます（図 2）。

「平成 13 年（2001 年）芸予地震」は、安芸灘～伊予灘～豊後水道にかけて沈み込むフィリピン海プレート内のやや深い場所（以下、「この領域」という。）で発生した地震です。

この領域では、1905 年 6 月 2 日の明治の芸予地震（M7.2）など、過去に繰り返し大地震が発生していることが知られており（図 3）、中国地方にも被害をもたらしています。

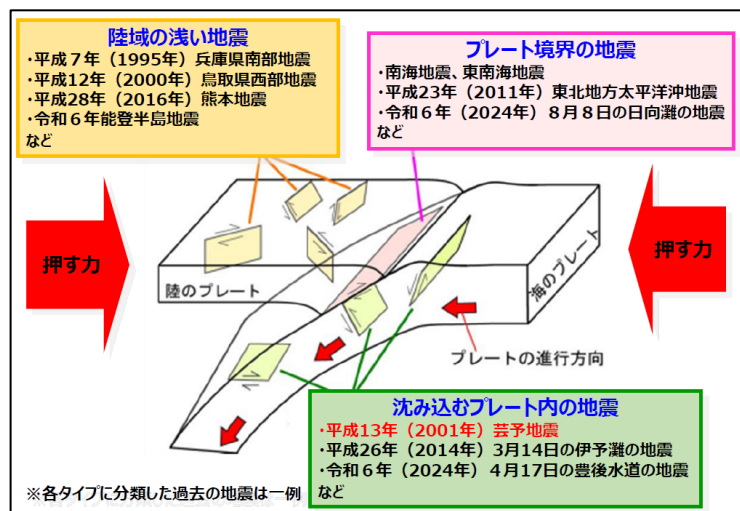


図 2 日本付近で発生する地震  
 （気象庁ホームページから引用・一部加工）

地震調査研究推進本部では、この領域で発生する地震について、次の青枠の通り長期評価を行っています。

平均発生間隔:約 60.3 年に 1 回、地震の規模:M6.7~7.4 程度、30 年以内の地震発生確率:40%程度

※詳細は、地震調査研究推進本部の以下リンクを参照願います。

[https://www.jishin.go.jp/evaluation/long\\_term\\_evaluation/lte\\_summary/](https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/lte_summary/)

(地震に関する評価>長期評価>長期評価結果一覧)

[https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou\\_pdf/hyuganada\\_2.pdf](https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/hyuganada_2.pdf)

(地震に関する評価>長期評価>海溝型地震の長期評価)

日本付近では、前述の地震発生のタイプにより、どこでも被害を伴う地震が発生する可能性があります。各地域に被害をもたらした地震について振り返り、災害から得た教訓を学ぶことにより、突発的に発生する地震に備えておくことが大切です。

日頃からの地震への備えとして、家具の固定や避難場所・避難経路の確認、家庭における水・食料の備蓄、非常用持ち出し袋の準備などをおきましょう。

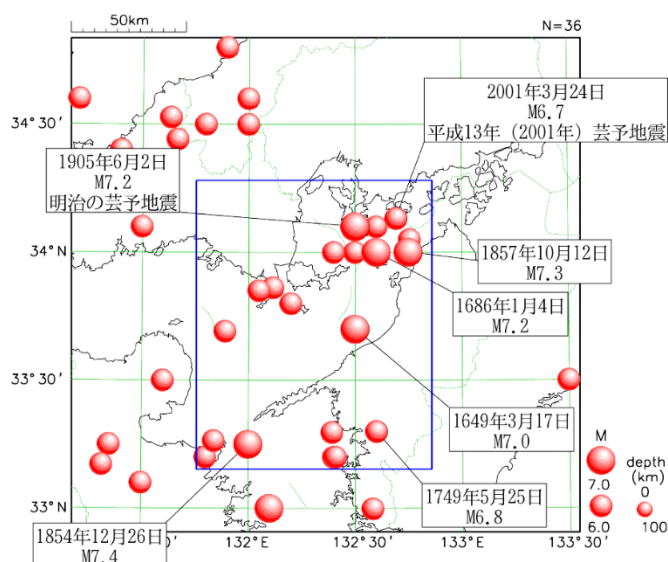


図3 震央分布図

(1600年~2025年12月31日、M $\geq$ 6.0、深さ $\leq$ 100km)

吹き出しを付けた地震は、地震調査研究推進本部の「日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価(第二版)」により、繰り返し発生している安芸灘~伊予灘~豊後水道のプレート内地震と評価された地震

日頃からの備えの概要

※Yahoo!ニュース制作図解・商用利用不可・図解を分割編集しての使用はできません。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

なお、本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。

広島県の地震に関する問い合わせ先

〒730 - 0012

広島市中区上八丁堀 6 - 30 広島合同庁舎 4 号館 14 階  
広島地方気象台 防災管理官室 TEL : 082 - 223 - 3953